

事業ピックアップ①

「ドーンセンター情報ライブラリー」

～公共図書館との差別化をはかり一層の専門図書館化～

「公共図書館との差別化」の取り組み

平成20年8月以降進められてきたドーンセンター情報ライブラリーの「公共図書館との差別化」の方針を踏まえ、平成22年度から24年度のライブラリー運営にあたっては、「男女共同参画関連分野の専門図書館」機能の強化をはかっています。重点的な取り組みとして、以下の3つを意識しています。

<重点的な取り組み>

①最適な情報の収集と整理、データベース化

②指導的立場の方々への専門的な情報相談

③ライブラリー機能を活用したプログラムの実施

【最適な情報の収集と整理、データベース化】

限られた予算の中で最適な資料を選択し、提供にあたっては的確かつスピーディに取捨選択できるよう収集・整理・データベース化することで、必要な情報へのアクセスをサポートしています。また、「研修・講座企画」、「授業の教材づくり」、「論文執筆」などにも役立つ情報を提供していくために、商業ルートでは流通していない資料も含めて、幅広く収集しています。

購入予算のない各種団体のミニコミ紙は、財団ニュースレター『DAWN通信』との交換で寄贈いただいています。また、情報へのアクセスをサポートしてきた実績が、「ドーンセンターに所蔵されれば広く活用される」との信頼につながってきていると考えられ、最近では、「このたび報告書を作成したのでドーンセンターに送りたい」といったお問い合わせもいただくようになってきました。

インターネット上で公開された情報は、ドーンセンターHPの「女性情報ステーション」に掲載し、キーワード検索をすることができるよう整備しています。新たに追加した情報を登録者に配信する「情報メールサービス」（月1回）も行っています。



ドーンセンターHPの「女性情報ステーション」

【指導的立場の方々への専門的な情報相談】

行政・学校関係者などを対象に、情報相談を通じた「ビジネス支援」に力を入れ、具体的な課題解決をサポートしています。こうした取り組みは、国立国会図書館でもお勧めレファレンス事例として取り上げられています。

行政・学校関係者など地域で影響力のある指導的立場にあるの方々への情報提供サービスをきめ細かく行うことで、男女共同参画社会づくりへの波及効果が期待できると考えています。

<情報相談件数：利用者別>

	H23年度		H22年度	
	件数	%	件数	%
一般利用者	324	45.1	261	35.1
女性関連施設・施策担当者	109	15.2	129	17.4
その他行政	90	12.5	112	15.1
学校関係者・研究者	109	15.2	124	16.7
学生	54	7.5	66	8.9
企業	14	1.9	27	3.6
報道関係者	6	0.8	12	1.6
外国人	13	1.8	12	1.6
合計	719	100.0	743	100.0

行政・学校関係者の情報相談内容としては、「人材及び学習情報の提供」、「特定テーマの資料案内及び情報」、「ライブラリーの活動や運営に関する情報」が多くなっています。「人材及び学習情報の提供」の具体的な内容は、講師紹介・人材情報、講座の組み方等へのアドバイス、教材・学習情報などで、「特定

テーマの資料案内及び情報内容」の詳細は、該当する資料の紹介、資料リストの作成、文献等の代行検索などです。「ライブラリーの活動や運営に関する情報」については、資料の収集方針や方法、資料の整理方法、情報システムやライブラリー活動に関することなどとなっています。

<行政・学校関係者の情報相談内容（平成23年度）>

	女性施策担当者		その他行政担当者		学校関係者・研究者	
	件数	%	件数	%	件数	%
A 利用案内	8	7.3	5	5.6	7	6.4
B 検索指導	0	0.0	0	0	1	0.9
C 資料の所蔵・所在調査	22	20.2	6	6.7	16	14.7
D 特定テーマの資料案内及び情報	14	12.8	17	18.9	32	29.3
E 人材及び学習情報の提供	40	36.7	49	54.4	27	24.8
F グループ及び行政の事業に関する情報	3	2.8	2	2.2	5	4.6
G ライブラリーの活動や運営に関する情報	22	20.2	11	12.2	21	19.3
合計	109	100.0	90	100.0	109	100.0

【ライブラリー機能を活かしたプログラムの実施】

「男女共同参画施策に関わる職員のための研修プログラム」や「学校教員のための研修プログラム」など行政・学校関係者対象の研修では、ライブラリー資料の活用をプログラムに組み込み、情報相談をお受けしながら学びをサポートしています。また、所蔵資料を活用した大学生向け人権学習プログラムや、読書会などを開催しています。

来館者アンケートの結果

「専門図書館としての機能」に評価

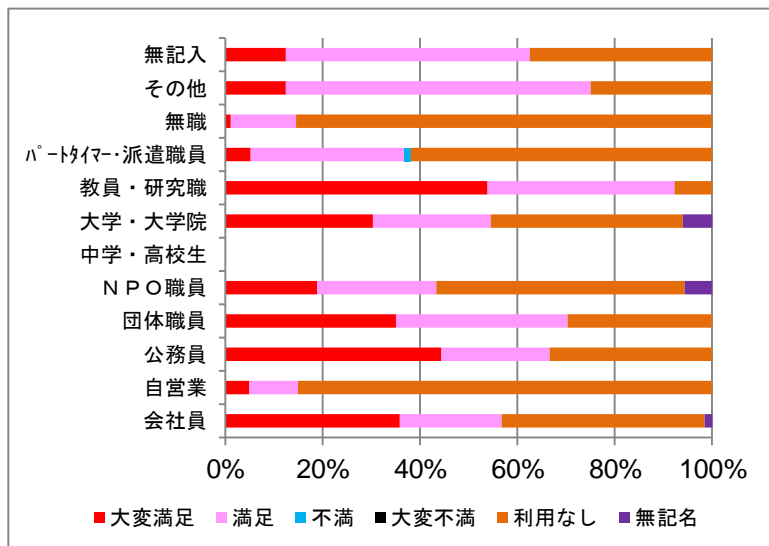
年1回実施している来館者アンケートの結果から、平成22、23年度ともに、「男女共同参画関連分野の専門図書館」としてライブラリーを利用している教員・研究職、公務員、団体職員、会社員の情報相談への満足度が高いことが明らかになっています。



大阪女学院大学人権研修でのオリエンテーション（上）

「男女共同参画施策に関わる職員のための研修プログラム」で行政資料の活用法を学ぶ

<情報相談満足度：職業別（平成23年度）>



事業ピックアップ④

「情報」「相談」「啓発」事業の連携

～事業連携の取り組み事例をご紹介します～

各事業で把握した課題・ニーズを相互に反映、 循環させる事業展開

ドーンセンターで実施している大阪府男女共同参画推進事業の3本柱「情報」「相談」「啓発」を、相互に連携させることで、効果的な事業展開をめざしています。あわせて、事業の運営にあたっては、以下の点を意識しながら行っています。

<事業運営にあたっての重点ポイント>

- ①男女共同参画をめぐる社会動向の把握
- ②多様な自主事業をリンクさせた総合的事业展開
- ③ドーンセンター施設機能を活かした事業展開
- ④事業の成果を評価・検証

男女共同参画をめぐる社会動向の把握 ～国の施策、市町村のニーズ～

【国の施策に沿った取り組み】

第3次男女共同参画基本計画で掲げられた「女性に対するあらゆる暴力の根絶」及び「男性にとっての男女共同参画」に即した事例をご紹介します。

平成22年度、内閣府「デートDV予防啓発指導者研修」を共催するとともに、内閣府「配偶者暴力等被害者支援緊急対策事業（パープルダイヤル：性暴力・DV電話相談）」を受託しました。平成23年度は、内閣府「東日本大震災被災地における女性の悩み・暴力（集中）相談事業」を受託し、平成24年度も引き続き「東日本大震災被災地における女性の悩み・暴力相談事業」の事務局を務めています。

国の積極的な暴力対策を受け、平成23年度「学校教員のための研修プログラム」ではデートDVをテーマに取り上げました。平成24年度は、より大阪府の実情に合わせた企画に改良していきます。

男性に向けた取組としては、平成23年度「メンタルヘルス」「ワークライフバランス」の2つを切り口に、啓発講座「心の折れない男の生き方」を企画、定員を超える方々にご参加いただき（定員充足率122%）ました。平成24年度は、「男性相談に関わる担当者のための研修プログラム」を開催し、男性問題への取り組みを地域に広めていく予定です。

【市町村のニーズ把握】

平成23年度は、東大阪市立男女共同参画センター（イコーラム）の指定管理業務、三重県伊賀市「女性リーダー講座」の受託を通して、市町村のニーズを直に把握できた年でした。

市町村センターの特色として、広報ツールが地域密着で、情報を確実に届けることができるという強みがあります。一方、人材やネットワークが地域中心のため、新たなテーマでの事業展開に踏み出しにくいことがうかがえました。また、地域の人材養成を成功させる鍵は、いかに参加者をつなぎ、エンパワーできるかにかかっているといても過言ではありません。講座の回を重ねるごとに学んで、気づいて、アクションにつながるようなサイクルを担当スタッフがファシリテートする連続講座運営を、市町村の人材養成プログラムにも反映することができました。今後は、「男女共同参画施策に関わる職員のための研修プログラム」において、こうした担当スタッフの役割に担当者自身が気づくことができるようなプログラムを提供し、男女共同参画の裾野を広げていきたいと考えています。

多様な自主事業をリンクさせた事業展開

【情報】×【啓発】×【各種自主事業】

行政・学校関係者向け研修プログラムでは、ライブラリーの資料活用をプログラムに組み込むことで、情報相談によるビジネス支援機能をPRし、ライブラリーの利用を促しています。また、各種講座の開催に合わせて、関連資料を集めた企画展示コーナーを設置し、資料をリスト化して参加者に配布することで、講座受講と情報活用による学習効果のアップをめざしています。その他、情報相談事例を分析することでニーズを把握し、企画に反映させています。

【キャリア塾】×【情報】

働く女性のワークとライフの充実をめざす「はなみずきキャリア塾」の参加者を対象に、ライブラリーツアーを実施しています。働く女性にとっても活用できる資料があることをPRし、情報との出会いを生み出しています。

【Women Pioneers】×【情報】

平成23年7月に完成したDVD&ブックレット『Women Pioneers』の読書会を、ライブラリーの書庫で開催しました。パイオニアに関連する資料の現物を展示し、資料リストを配布することで読書会の雰囲気が盛り上がるのと同時に、蔵書資料の有効活用にもつながりました。

【啓発】→【スーパービジョン講座】

相談の現場ではさまざまな課題に直面し、相談員自身にも迷いや悩みが生じます。そのため、臨床に基づいた研修の機会を、よりよい相談を行うためにも、援助者が燃え尽きることなく仕事を継続するためにも大切です。「女性のための相談に関わる担当者のための研修プログラム」で基礎を身につけた後のステップアップ講座として、相談事業で実施してきたスーパービジョンのノウハウを活かし、市町村や関係機関の方々に向けた「スーパービジョン講座」を提供しています。

ドーンセンター施設機能を活かした事業展開

【女性芸術劇場】×【情報】×【ドーンセンター】

女性写真家の草分け・山沢栄子の生涯を描いた第17回女性芸術劇場「光をあつめて」の開催により、ドーンセンター設立時にホールに常設された山沢栄子作品の陶板画を改めてクローズアップするとともに、1階ロビーでは「山沢栄子ポスター展」を開催しました。また、ライブラリーコレクション「女性の表現作品集」による企画展を開催しました。

【母子家庭のお母さんなどを対象とした職業訓練】

×【情報】×【相談】×【啓発】×【ドーンセンター】

「母子家庭のお母さんなどを対象とした職業訓練」は、パソコンスキルと仕事準備講座を組み合わせた、就職に向けた実践プログラムです。参加者の中には、DV被害経験や親からの被虐待経験を持つ方もおられ、講師・スタッフも含めたサポート体制を意識しています。ライブラリー機能をはじめ、「相談」「啓発」のノウハウをフル活用した事業です。また、センターのスペースの広さと施設機能の豊富を活かし、目的に応じて会議室を使い分けています。長期にわたる講座のため、会議室を移動し、気分転換をはかれることが、受講者が



継続して受講していくための利点ともなっています。
パソコン講座の様子

事業の成果を評価・検証

【情報】ライブラリー来館者アンケート及び、情報相談分析を実施しています。

【相談】電話・面接相談統計の分析をしています。

【啓発】講座ごとにアンケートを実施しています。連続講座では、コミュニケーション・カードを用いて、意見や要望を取り入れた運営を行っています。